

教育実習Ⅰ

11月10日から14日までの5日間、静岡大学教育学部特別支援専攻の2年生(20名)が初めての教育実習を行いました。実習生たちは、初めは児童生徒とどのように接すればいいのか分からない様子や緊張した様子が見られましたが、毎日児童生徒のことや授業について考えることで、大学で学んできた知識をより深く理解できるようになってきました。また、同じクラスに配属された実習生同士で意見を出し合い、授業の内容を考えて教材を作り、授業実践をすることで、良かった点、改善点にも気付くことができました。学びの多い教育実習になりました。

小学部

1組では、バスの動きに合わせて絵本を傾けたり、絵本の言葉に合わせてタッチしたりと子どもたちと絵本の世界に親しました。2組では、3組と合同の体育の授業を考えました。サッカーボールを蹴ったり、ゴールに向かってシュートしたりと実習生も一緒になって体を動かしました。3組では、用具を操作してボールを飛ばすゲームを考え、みんなで楽しい時間を過ごしました。



中学部

国語・数学や体育、生活単元学習、作業学習など、様々な授業に参加し、子どもたちの実態や教師の指導・支援について学びました。休み時間や昼休みには積極的に子どもたちと関わり、好きなことを知ろうとしたり、一緒に遊んで関係づくりをしたりする姿が見られました。大学の授業だけでは分からなかった実際の子どもたちの姿や教育現場の様子を知り、実りある教育実習になったようです。



高等部

1年生では、職業で「ドリームマップを使って自己理解を深めよう」

2年生では、職業で「社会人の一日のスケジュールを考えよう」

3年生では、生活単元学習で「レッツゴー修学旅行」
の授業を行いました。

実際に授業づくり、授業実践を経験し、ワークシートなどの教材教具の工夫、教員間の連携、予想される生徒のあらわれや実態把握、生徒に伝わる伝え方など、授業のポイントに気付き、より良い授業づくりへのモチベーションが高まったようです。

